

WOC 再編の臨時総会提案について

2015年7月5日
日本オリエンテーリング協会
強化委員会 藤井範久

2015年8月の月上旬にインバネスで開催される IOF 臨時総会の「WOC 再編に関する議案」について、日本オリエンテーリング協会／強化委員会としては、「賛成」の立場をとる。

理由を以下の通りに上げる。

①選手の視点

日本チームの代表選手は、日本社会の特性上、受験、就職活動など、一時的に競技活動を低下せざるを得ない時期がある。現在の毎年開催は選手によっては、競技活動を進める上で負担となり、かえって中長期的なビジョンを立てにくい状況となっている。

本提案によれば、スプリント、フォレストいずれを目指すかを明確にすることで、競技以外の人生設計と組み合わせ、中長期的に WOC を目指しやすくなると思われる。

また、隔年開催となれば、エリート選手も WC、北欧の主要大会、各国選手権など WOC 以外の遠征を組み合わせることで幅広いオリエンテーリングの経験、技術を身につけることも出来る。

スプリントについては、開催地の多様化に伴いアジア地区での開催も現実的となる。地域的ハンディ（事前遠征の回数、遠征費用負担、文化的障壁など）の軽減により、相対的に高い順位を狙いやすくなる可能性がある。

フォレストについては、予選が復活することにより、より多くの選手にとって WOC 代表を目指すチャンスが生まれる。

②強化委員会の視点

現在は毎年開催で、かつスプリント、フォレストと競技が多様化する中で、（人的、金銭的）に限られたリソースでの強化活動が限界にきている。

隔年開催となれば、スプリント強化、フォレスト強化それぞれを2年計画でメリハリつけて行うことで、効果的、効率的な強化を行うことができる。

③一般オリエンティアの視点

WOC 開催は毎年維持されることで、観戦（現地、ライブ）や選手を応援することの楽しみは今までと同等に行うことができる。

また、開催期間の短縮や、上記①のアジア開催の可能性も含めれば、より観戦のための遠征をしやすい条件が整う。

④その他

WOC2020 以降の偶数年のスプリント WOC は開催時期を柔軟に選択できること、トレイン的制約、組織的負担が低減する。これより、WOC2005 以来となる、日本での WOC 開催の可能性について検討する余地は増えると考えられる。これらは選手にとっても中長期的に高いモチベーションを与える。

問い合わせ先
業務執行理事 藤井範久
nfujii@orienteering.or.jp